

第3回10月 東大本番レベル模試 (2021年10月17日実施)

【1】-A (10点満点)

【例1】

男は泣いてはいけないというしつけは精神衛生上有害だ。泣くと心が癒やされるので、健全な感情発達のために、負の感情を抑圧せずに認め、素直に表現するよう教えるべきだ。(80字)

【例2】

男らしさの押しつけは男の子の情緒の発達を妨げ、泣くなという感情の抑圧は害になる。すべての感情は正常で、泣くことも感情の健全な表現方法であることを教えるべきだ。(79字)

必須項目 (10点)	<p>① 「幼い頃から少年たちは<b>男らしさ</b>を期待される」(2点)                  The art of <b>manliness</b> is something many boys are expected to acquire as they get older.                  Those words may now sound old-fashioned, but traces are left of mistaken <b>masculinity</b> which negatively affects our youth.</p> <p>▶ 「男らしさ」(<b>manliness / masculinity</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「男性的」「男は～でなければならない」は「男らしさ」と認める。</p> <p>② 「<b>抑圧された感情</b>は深刻な<b>悪影響</b>をもたらす」(4点)                  Their <b>suppressed emotions</b> often have serious <b>negative effects</b> like depression.</p> <p>▶ 「<b>抑圧された感情</b>」(<b>suppressed emotions</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「感情の抑圧」は「抑圧された感情」と認める。                  ▶ 「<b>悪影響</b>」(<b>negative effects</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  ○ 「有害/害」は「悪影響」と認める。</p> <p>③ 「<b>健全な感情発達</b>にはすべての感情を受け入れて表現するのがよい。<b>泣く</b>ことは<b>健全な感情表現</b>である」(4点)                  The first step in <b>healthy emotional development</b> involves both boys and girls learning to accept that all emotions, ...                  The second step is teaching them how to express all their emotions constructively, ...  <b>Crying</b> is a very <b>healthy expression of feelings</b> such as sadness and disappointment.</p> <p>▶ 「<b>健全な感情発達</b>」(<b>healthy emotional development</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。                  × 「感情の発達」だけでは「健全な感情発達」と認めない。                  ▶ 「<b>泣く</b>」(<b>Crying</b>)に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。</p>
---------------	---

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【例1】

Friendship is tested especially in difficult situations. We often see that when a celebrity loses their status or wealth for whatever reason, the friends who seem to have been close to them disappear in an instant. When things are going well, it's easy to help each other. However, once you are in trouble, there are few friends you can rely on. It will enrich your quality of life to develop friendships that won't fall apart even in difficult times. (79 語)

(友情は、困難な状況のときこそ試される。有名人が何らかの理由で地位や富を失うと、それまで親しくしていたように見える友人たちが一瞬にして姿を消してしまうのをよく目にする。物事がうまくいっているときは、互いに助け合うのは容易である。しかし、ひとたび苦境に陥ると、頼れる友人はほとんどいない。困難なときでも壊れない友情を育むことは人生の質を高めてくれるだろう)

【例2】

It is a true friend who will do what you really need when you need it. One who only gives you advice that is pleasant to hear is not a true friend. For example, when you speak ill of others, you might feel good if he or she agrees with you. In the long run, however, it won't do you any good. A true friend is the one who gives you harsh criticism when you are doing something wrong. (79 語)

(必要なときに本当に必要なことをしてくれるのが真の友人だ。耳触りの良いアドバイスしかしらない人は、真の友人とはいえない。例えば、自分が他人の悪口を言ったとき、同意してもらえれば気分がいいかもしれない。しかし長い目で見ると、自分のためにはならないだろう。真の友人とは、自分が間違ったことをしているときに厳しく批判してくれる人のことだ)

【例3】

Reaching out to someone in need, even if they are not a friend, can be true friendship. One summer, all of our baseball team's equipment was washed away by a flood. When our team was about to give up on our upcoming tournament, a team from a neighboring town helped us out. They lent us half of their equipment and encouraged us to work hard together. The spirit of self-sacrifice in helping others is what we should call friendship. (79 語)

(困っている人に手を差し伸べるのは、それが友人でなくとも、真の友情になり得る。ある夏、私たちの野球チームの用具がすべて洪水で流された。次の大会をあきらめようとしたとき、隣の町のチームが助けてくれた。彼らは自分たちの用具の半分を貸してくれ、一緒に頑張ろうと私たちを励ましてくれた。自己犠牲を払って人を助ける精神は、友情と呼ぶべきものだ)

【例4】

I agree with the saying, and I think how we help friends in need varies. When my mother was seriously ill, and I had to take care of my family, one of my friends would leave a flower she had picked and tied with a ribbon at our front door every morning. She probably couldn't figure out what to say to me, but it soothed my heart more than any comforting words could have done. (75 語)

(そのことわざには同意するが、困っている友人をどう助けるかはさまざまだと思う。母が重い病気になり、私が家族の面倒を見なければならなかったとき、友人の1人が毎朝、自分で摘んでリボンを結んだ花を1輪、玄関の戸口に置いてくれた。彼女はたぶん私に何と書いていか分からなかったのだと思うが、それはどんな慰めの言葉よりも私の心を癒やしてくれた)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(60～80語)を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

【問題】以下のことわざを読み、あなたが思うことを、理由を添えて60～80語の英語で述べよ。

A friend in need is a friend indeed.

ポイント1 A friend in need is a friend indeed. (困ったときの友こそ本当の友) について思うこと

- \* A friend in need is a friend indeed. に無関係なものは**6点減点**。
- \* A friend in need だけにしか触れていない (a friend indeed がまったくくない) ものは**3点減点**。
- \* indeed の誤解は**3点減点**。

ポイント2 (ことわざについて思うこと)の理由

- \* (ことわざについて思うこと)の理由がないものは**6点減点**。
- \* 論旨が一貫していないと判断されるものは**3点減点**。

【2】－B（12点満点）

【問題】

しかし、何か仕事をしなければ、書物も買えないような身分の私は、何時(いつ)までも、そんな陶酔気分に入っている訳には行かない。

【例1】 However, as a person who cannot afford to buy a book unless I do some kind of work, I cannot stay in such a dreamy mood forever.

（しかし、何らかの仕事をしない限り本1冊買う余裕がない人間として、私はいつまでもそんな夢気分のままでいることはできない）

【例2】 However, since I'm a poor man who could never even buy a book without having a job, I have to wake up from such a fantasy at some point.

（しかし、私は仕事をしなければ本1冊を買うことさえできないような貧乏人なので、ある時点でそのような幻想から目を覚まさなければならない）

【例3】 But I'm not rich enough to buy a book without working, so I can't remain lost in that imaginary world for as long as I like.

（しかし私は働かずに本を買えるほど金持ちではないので、私はそんな想像の世界に好きなだけ長く迷い込んだままではいることはできない）

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 以下の①～⑥の区分に指定の得点を配分。

① 「しかし、…ような身分の私は」 **(2点)**

② 「何か仕事をしなければ」 **(2点)**

③ 「書物も買えない」 **(2点)**

④ 「何時(いつ)までも」 **(2点)**

⑤ 「そんな陶酔気分に入っている」 **(2点)**

⑥ 「訳には行かない」 **(2点)**

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

the question characterized only people who had little familiarity with books

<例 1>

その質問は、本にあまり慣れ親しんでいない人だけに特有のものである

<例 2>

その質問は、本になじみが薄い人たちに限ったのものである

区分	配点	具体事例
the question characterized ~ その質問は～を特徴づける	2点	×the question characterized の SV 関係がわかっていないものは不可（－2点）。 ×the の訳抜けは不可（－2点）。具体化しているものは可。
only people who ~ ～人だけ	1点	×who が people を先行詞とする関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ×only を characterized に掛けているものは不可。
had little familiarity with books 本にほとんどなじみのない	1点	×little の訳は広く認めるが、「少し（ある）」など否定語だとわかっていないものは不可。 ×books の訳抜けは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B (イ) (4点満点)

<問題>

下線部 (イ) はどういうことか、代名詞 (it, that) および more の内容が具体的に分かるように、50 字程度の日本語で説明せよ。

there is more to it than that

<例1>

その質問の裏には、蔵書が仕事の道具だということへの無理解だけでなく、学習に対する恐れや後悔がある。(49 字)

<例2>

全部の本を読んだのかという質問には、本を商売道具だと見なさない姿勢に加え、学びに対する不安と無念が表れている。(55 字)

- ① 39 字以下または 61 字以上は 0 点。
- ② 次の (1) (2) (3) が必須項目。

※全体としての趣旨そのものがまったく違うものは**-4 点 (0 点)**

※概ね趣旨が正しいものについて、次の (1) ~ (3) の要素の不備は配分の点数を減点。

(1) 「その質問には～がある」に相当するもの (これがないもの、不適切なものは**1 点減点**)

×it が the question を指す代名詞だとわかっていないものは不可。

(2) 「本棚を読み終わった本の保管場所とみなす」(that の内容) に相当するもの (これがないもの、不適切なものは**1 点減点**)

○「蔵書を仕事の道具だと思えない」「本を商売道具だと見なさない」なども可。

(3) 「学ぶことのつらさ/怖れ (と後悔)」(more の内容) に相当するもの (これがないもの、不適切なものは**2 点減点**)

×「学ぶこと」(learning) に相当するものがないものは不可 (-2 点)。

○「学ぶことのつらさ(pain)」または「学ぶことへの怖れ(fear)」のどちらかがあれば認める。

(「後悔(regret)」はなくてよいが、「後悔」だけで「つらさ/怖れ」がないものは不可 (-2 点)。

○「苦痛/痛み」は「つらさ(pain)」と認める。

○「不安/恐怖」は「怖れ(fear)」と認める。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>

leads the visitor to hasten the moment of his departure

<例1>

来客に早く帰るよう促すことになる

<例2>

客が早々に立ち去ってくれるようになる

区分	配点	具体事例
[a reply that] leads the visitor to ~ その訪問者が～よう仕向ける [返事]	2点	×leads が他動詞で, leads の主語が a reply を先行詞とする主格の関係代名詞 that だとわかっていないものは不可 (−2点)。
hasten the moment of his departure 彼の出発の瞬間を早める	2点	×the moment が他動詞 hasten の目的語となる名詞だとわかっていないものは不可 (−2点)。 ○departure の訳は「帰る (こと) / 立ち去る (こと)」など可。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳, 訳漏れ, 英語のまま, 不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部 (B) を和訳せよ。

until now I was being paid so much money that I could no longer turn away

<例1>

ついには、提示された額は、もうこれ以上断り続けることができないほどになった。

<例2>

とうとう、もはや拒むわけにはいかないほどの高額報酬をもらうまでになっていた。

次の区分に分けて配点する。(加点法ではなく**減点法**で採点してください)

区分	配点	具体事例
until now I was being paid とうとう今や私は～を支払われることになった	2点	○until now は「ついに／とうとう」でよい。 ○until が接続詞だとわかっているものは「…まで」も認める。 ×until now を副詞句ととっているものは不可(－2点)。(「今まで(私は～を支払われていた)」など) ×時制が過去でないものは不可(－2点)。
so much money that ~ ～ほど多くの金	1点	×so ~ that ... が程度・結果を表す構文だとわかっていないものは不可。 ×money を paid の直接目的語ととっていないものは不可。
I could no longer turn away 私かもはや断ることができない	1点	×could の訳抜けは不可。 ×turn away に「引き返す／逃げる／元に戻す」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(C) (4点満点)

<問題>

下線部 (C) の内容を具体的に日本語で説明せよ。

he was impressed

<例1>

立派な邸宅で、成功しているプロデューサーから多額の現金を受け取る息子の姿に父は感心した。

<例2>

父親は、息子が自分を豪邸に案内して持ち主の事業家に引き合わせた上、積み上げられた百ドル札を受け取るのを目にして感心した。

① 次の (1) (2) が必須項目。

※全体としての趣旨そのものがまったく違うものは**－4点 (0点)**

※概ね趣旨が正しいものについて、次の (1), (2) の要素の不備は配分の点数を減点。

(1) 「父が感心した」 (he was impressed) に相当するもの (これがないもの、不適切なものは**2点減点**)

× he を父親以外ととっているもの、具体化していないものは不可 (－2点)。

(2) 「息子が多額の金を受け取る」 に相当するもの (これがないもの、不適切なものは**2点減点**)

× 「息子」 がないものは不可 (－2点)。

○ 「息子」 は「私」 も可。